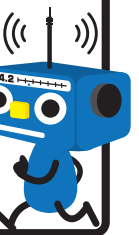


ラジオの 西東京さんぽ

田柄用水ウォーク



ルート制作・監修
滝島 俊

この地図をみて実際に歩いた人は
編集部までお便りください！
※メールは欄外のアドレスまで
スタッフ
プレゼント！

田柄用水
田無町3丁目10番の田無用水北流(現やすらぎのこみち)から分水し、明治4年(1871)に田無から上保谷、関、上・下石神井、谷原田中、下土支田、上・下練馬への10か村への通水を目的として開削された灌漑を目的とした用水です。下流域で自然河川の田柄川と接続しているため田柄用水と呼ばれ、田無町場内の田無用水北流(現やすらぎのこみち)は後年になって田柄川と呼ばれていました。分水点から富士町1丁目の富士街道合流付近までは蓋暗渠として現在も確認できますが、その後は富士街道に沿った歩道として暗渠化されており、痕跡は石神井台8丁目の「けやき憩いの森」の田柄用水跡(練馬区登録史跡)の素掘り開渠部以外殆ど確認できません。

スタート
やすらぎのこみち

ゴール
富士街道

15 numbered points on the map correspond to the detailed descriptions in the adjacent columns.

用水としての通水は昭和30年代で途絶え、その後は生活排水が流れるようになり水質は悪化、昭和40年代には暗渠化が進み市内流域には蓋がかけられました。現在は生活排水が入らないため流れは枯渇していますが、降雨時に雨水が流入し水が溜まることもあります。

ルートには個人宅もあるので、迷惑にならないよう配慮してください。実際の道路の交通ルールに従って歩いてください。

水にとほしかった練馬や石神井の村々の希望により明治になってから開削された最後の用水が田柄用水。最初はなかなか最後まで流れなかったけど、周辺の村々の田畑を潤し、後には工業用として多くの水車を回したんだ。今はもう使われていないけど、暗渠として残されている用水路を巡ると、新しい発見があるかも知れないよ！



842fm@842fm.com

1 分水口
明治4年(1871)に開削された田柄用水への分水口。その後田無用水北流の流れは主に田柄用水への比重が高まりました。

2 やまじょうの水車跡地
ここから分水し、中央通り方向に下田太郎衛門(屋号:やまじょう)の水車がありました。

3 北原住宅入口
戦中に中島飛行機の住宅が出来ると、田柄用水の流れが付け替えられました。

4 田無と保谷の境界
この角までが田無、ここからは保谷となる境界です。現在の暗渠蓋のサイズも異なります。

5 中島軽便鉄道が横切った場所
終戦直前に存在した中島軽便鉄道は、ここで田柄用水を横切っていました。

6 西浦北向き地藏
享保4年(1719)に西浦講中により造立された地藏菩薩立像で、通称北向地藏と呼ばれています。この地蔵にまつわるいくつかの民話が伝えられています。

7 石製尾張藩鷹場標杭
江戸時代、上保谷村は尾張藩の鷹場の境界に位置していたため、9本の鷹場杭が存在していました。そのうちの5本がこの地に集められています。

8 保谷町二号水源
東京都水道局保谷町二号水源として、地下水を汲み上げて水道水としてフレンドしています。

9 青面金剛庚申像
この地には大きなエノキがあり、江戸時代には高札場も立つ上保谷村の中心地でした。造立は正徳4年(1714)で丸彫りの珍しいもの。昭和20年の爆撃により、腕を3本失いました。市指定文化財第23号です。

10 七体六地藏菩薩立像
大塚塔共同墓地内の堂宇に安置される菩薩像で、安政4年(1857)の造立。中央の延命地藏坐像が主尊で、他の6体は分身とされます。

11 岩船地藏尊旧地
かつてここには市指定文化財第47号の2体の地藏尊がありました。上保谷村の文化を伝える貴重な文化財でしたが、現在は移設・保管されています。

12 富士街道
東京都道8号千代田練馬田無線で、江戸時代より「ふじ大街道」「行者街道」と言われ、富士山詣で、大山詣でなどに利用されました。田柄用水はこれ以降、富士街道に沿って練馬方面に流れていました。

13 水車場跡
この地には下田家の水車場がありました。いったん富士街道を逸れる複雑な流路はそのためと思われる。

14 馬頭観音文字塔
西東京市の最東端、高塚の交差点に建つ石塔は、宝暦12年(1762)の造立で、この地は石神井村方面から見て上保谷村の入り口でもありました。

15 けやき憩いの森(練馬区)
田柄用水で唯一素掘りの開渠が見える場所で、田柄用水跡として練馬区登録史跡となつています。流れを取り込んで野菜の洗い場がありました。これ以降も富士街道に沿って練馬方面へと流れていました。